

河合塾・大竹先生による

## 先生方のための徹底入試対策講座

## 第28回 自分で考えるだけではいけませんか？

街にクリスマスのムードが盛り上がってくるころになると、予備校も冬期講習に忙しくなってきます。先日、高校3年生の受講者が相談？にやって来ました。普段は予備校に通うことができない生徒です。

「先生、数学はどのように勉強すればいいのですか？」  
 「ええっ、君、こんど受験ですよ。」  
 「はい、そうなんですけど、数学の成績が全然伸びないんです。」  
 「君はどんな勉強をしてきたの。」  
 「学校の問題集の一応予習をして授業を受けています。」  
 「それはいいけど、そのあとは？」  
 「わかった問題はもう一度解きなおしています。」  
 「それはいいけど、わからなかった問題は？」  
 「考えてもわからないのでそのままです。」  
 「え`え`っ、..... わからなかったことを勉強するのじゃあないの？」  
 「いくら考えても、わからないので....」  
 「それは、君い、勉強してないってことですよ。」  
 「自分で考えるだけではいけませんか？」

小学校や中学校なら、ちょっと器用な子は自分で考えてどんどん解決していくことも少なくありません。しかし、高校の数学となるとそうは単純ではありません。

ゆとりの教育の成果？でしょうか、自分で考えて何とかしようとする生徒がここ数年でかなりの勢いで増えてきているように思います。

全く信じられないような方向違いの別解？を持ってきて、「こう考えては解けませんか」とか、余計面倒になるにもかかわらず、「対偶をとって証明できませんか」というような質問？？を受けた経験のおありの先生もたくさんいらっしゃると思います。自分勝手な方向で解こうと思うなら、他人に聞くのは奇妙で、自分で解決しなければなりませんよね。

もちろん自分で考えることは大切なことです、

**数学は、学ぶことも大切です。**

学ぶことを知らない、つまり、勉強の仕方を知らない生徒が急増しているという印象があります。

「勉強するっていうことは、

**授業を受けたり、教科書や参考書を読んで学んだり、  
 友達と数学の議論をしたり、先生に教えてもらったり、  
 そして、自分で考えたり、**

そうしたことの総体なのですよ。」

「今まで僕は勉強していなかったということですね、よくわかりました。でも、先生、まだ間に合いますか？」

「間に合うかどうか知らない。でも、勉強するしかないよね。後は君次第ですね。数学は、何千年という長い歴史を持っている、その文化遺産としての数学の一端をありがたく受け取り、そしてさらに自分の頭で考える、受け取るためには、また、しっかりと頭を使わなければならない、ということですよ。」